

令和7年度事業報告

自 令和7年4月1日
至 令和8年3月31日

1. 会 員

会員状況（令和8年3月31日現在）は、次のとおりである。

会員種別	既往数	入会数	退会数	計
正会員	4,239	388	547	4,080
特別会員	1,623	47	3	1,667
名誉会員	35	2	2	35
計	5,897	437	552	5,782

2. 会議の開催

(以下、敬称略)

1) 第79回定時総会

令和7年6月20日、東京都千代田区「全社協・灘尾ホール」で開催、議決権のある当協会の会員総数5,743名のうち出席会員数（委任状による者を含む。）3,957名が出席、「令和6年度事業報告」、「令和6年度決算」を承認し、「理事及び監事の選任」「名誉会長の選任」を行い、各候補者全員が選任されたほか、「公益社団法人日本道路協会定款の一部変更」及び「役員に対する報酬等の総額に関する規程の一部改正」を承認した。その後、「令和7年度事業計画書」、「令和7年度収支予算書」及び「令和7年度資金調達及び設備投資の見込み」について報告が行われた。

選任された理事及び監事は次のとおりである。

理 事

石川雄一	井上剛志	青木由行	石塚周平
宇野文章	江坂行弘	大串葉子	大本修
小幡学	川上孝裕	川田忠裕	神田昌幸
久保田尚	前佛和秀	高水紀美彦	東福忠彦
永田順宏	野田勝	羽藤英二	寶来優
松井保幸	南博高		

(計22名)

渡 邊 光一郎 由 木 文 彦 水 野 明 久 縄 田 正
村 尾 和 俊 芝 村 善 治 根 岸 修 史 中 野 健 二 郎
後 藤 政 郎

(計 57 名)

名誉会員

桑 原 雅 夫 徳 山 日 出 男 (計 2 名)

(2) 第 231 回理事会を令和 7 年 6 月 20 日、東京都千代田区「全社協・灘尾ホール」で開催、理事 39 名のうち出席者 28 名、監事 3 名のうち 3 名が出席、「会長、副会長の選定」について審議し、会長に深澤淳志を、副会長に西田義則を選定した。なお、選定された深澤淳志は、席上、会長の就任の承諾をした。「業務執行理事の選定」について審議し、業務執行理事（総務委員長）石川雄一、業務執行理事（経理委員長）小幡学、業務執行理事（事業委員長）村山一弥、業務執行理事（政策委員長）青木由行、業務執行理事（調査委員長）木村嘉富、業務執行理事（組織委員長）野田勝、業務執行理事（出版委員長）高橋知道、業務執行理事（国際委員長）石原康弘、業務執行理事（編集委員長）菊地春海、業務執行理事（広報委員長）前佛和秀、業務執行理事（事務局統括）寶来優について原案のとおり議決した。その後、「外部監事に対する報酬等の支給の基準に関する規程」の制定について原案のとおり議決した。

(3) 第 232 回理事会を令和 7 年 11 月 21 日、東京都千代田区「日本道路協会会議室」で開催、理事 39 名のうち出席者 30 名、監事 3 名のうち 2 名が出席、「会員の入会」、「新年交礼会の開催」及び「副会長森昌文の選定」について原案どおり議決した。

(4) 第 233 回理事会を令和 8 年 3 月 26 日、東京都千代田区「日本道路協会会議室」で開催、理事 39 名のうち出席者 32 名、監事 3 名のうち 3 名が出席、「令和 8 年度事業計画書及び収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込み」、「令和 7 年度会長奨励賞対象者（案）」、「会員の入会」及び「役員賠償責任保険の継続加入」について原案どおり議決した。

なお、理事会開催の後に富山英範（国土交通省大臣官房審議官（技術・道路））を講師に「道路懇話会」を開催した。

3. 名誉会員の異動

下記の異動があった。

名誉会員 萩 原 浩（逝去）
名誉会員 佐 藤 清（逝去）

4. 調査・研究事業

委員会名	開催回数		審議内容
	委員会	幹事会	
交通工学委員会 道路構造規格小委員会 交通容量WG 交通安全小委員会 道路標識WG 防護柵WG 道路照明WG	2 4	 3	下記図書の作成・審議等 「道路構造令の解説と運用」改訂方針検討 「道路の交通容量」改訂版発刊 「道路標識設置基準・同解説」改訂方針検討 「防護柵の設置基準・同解説/ポラードの設置便覧」改訂方針検討 「道路照明施設設置基準・同解説」改訂版発刊
橋梁委員会 性能評価・診断小委員会 品質保証小委員会	3 7	8 15	下記図書の作成・審議等 1) 「道路橋示方書・同解説（全5編）」改訂版発刊 2) 「道路橋示方書便覧集（和英）」（HP掲載）原案検討 4) 「道路橋補修・補強事例集」原案作成 5) 「道路橋耐久生設計便覧」原案作成 6) 「道路橋耐風設計便覧」改訂原案作成 7) 「道路橋設計便覧」原案作成 8) 「道路橋床版防水便覧」改訂原案作成 9) 「道路橋伸縮装置便覧」「道路橋施工便覧」改訂検討
舗装委員会 総括小委員会 舗装マネジメント小委員会 環境・再生利用小委員会 舗装性能評価小委員会 舗装設計施工小委員会	2 2 1 3 2	6 27 14 18 39	下記図書の作成・審議、発刊等 「舗装の構造に関する技術基準・同解説」改訂原案作成 舗装のライフサイクルコスト算定方法に係る課題整理 「舗装再生便覧」改訂検討 「舗装調査・試験法便覧」等指針・便覧等の改訂に向けた課題整理 1) 「アスファルト混合所便覧」改訂原案作成 2) 新設計体系に基づく技術図書の検討
道路土工委員会 共通小委員会 盛土工小委員会 擁壁工小委員会 カルバート工小委員会 切土工斜面安定工小委員会	4 4 2 3 3 3	7	下記図書の作成・審議、発刊等 1) 「道路土工構造物技術基準・同解説」改訂版発刊 2) 基準、基準・同解説の改訂をふまえた指針の改定の方 向性および課題整理 3) 道路土工構造物の性能に関する課題整理 4) 定期点検要領等の内容を踏まえた維持管理に関する参 考図書の策定検討
トンネル委員会 トンネル維持管理小委員会 トンネル附属施設小委員会 トンネル設計・施工小委員会	3 1 1	5 1 11	下記図書の作成・審議等 「道路トンネル維持管理便覧（本土工編）」改訂検討課題整理 「道路トンネル技術基準（換気編）・同解説」改訂検討課題整理 「道路トンネル技術基準（構造編）・同解説」改訂原案作成

委 員 会 名	開催回数		審 議 内 容
	委員会	幹事会	
道路震災対策委員会	1	3	下記図書の作成・審議等 「道路震災対策便覧（震前対策編）」改訂原稿作成
道路維持修繕委員会 事例集運営WG 電線共同溝維持管理WG	1	4	下記図書の作成・審議等 「道路管理の新技术・好事例集（HP公表）」更新 「電線共同溝点検手引き（道路局発出）」を受け、不具合事例の収集・分析

5. 成果の提供・普及事業

道路技術者の一層の利便に資するため、調査委員会等の成果を踏まえた図書を紙及び電子で発行した。

1) 紙 図 書（18点・印刷部数 67,700部）

紙図書は改訂図書及び既刊図書の印刷を次のとおり行った。

(1) 改 訂（8点・60,300部）

「道路の交通容量（令和7年7月）」	2,300部
「道路土工構造物技術基準・同解説（令和7年11月）」	5,000部
「道路橋示方書・同解説Ⅰ共通編（令和7年10月）」	10,000部
「道路橋示方書・同解説Ⅱ鋼部材・鋼上部構造編（令和7年10月）」	10,000部
「道路橋示方書・同解説Ⅲコンクリート部材 ・コンクリート上部構造編（令和7年10月）」	10,000部
「道路橋示方書・同解説Ⅳ下部構造編（令和7年10月）」	10,000部
「道路橋示方書・同解説Ⅴ上下部接続部編（令和7年10月）」	10,000部
「道路照明施設設置基準・同解説（令和8年2月）」	3,000部

(2) 既刊図書の増刷（10点・7,400部）

「舗装設計便覧 平成18年版」	800部
「コンクリート道路橋施工便覧 令和2年改訂版」	400部
「舗装設計施工指針 平成18年版」	800部
「道路土工－仮設構造物工指針」	2,000部
「道路反射鏡設置指針」	300部
「舗装点検必携 平成29年版」	500部

「車両用防護柵標準仕様・同解説 平成 16 年 3 月」	500 部
「道路標識構造便覧」	500 部
「道路標識設置基準・同解説 改訂版」	600 部
「道路橋支承便覧 平成 30 年 12 月」	1,000 部

(図書の販売状況)

(単位：部)

年 度	期首在庫	印刷部数	販 売 等	期末在庫
令和 6 年度	29,348	29,500	27,744	31,104
令和 7 年度	31,104	67,700	60,789	38,015

2) 電子図書 (23 点・販売部数 8,000 部)

電子図書の販売部数は次のとおり。

(1) 新 刊 (8 点・6,765 部)

「道路の交通容量 (令和 7 年 7 月) Ver.1.00」	300 部
「道路土工構造物技術基準・同解説 (令和 7 年 11 月) Ver.1.00」	417 部
「道路橋示方書・同解説 I 共通編 (令和 7 年 10 月) Ver.2.00」	1,250 部
「道路橋示方書・同解説 II 鋼部材・鋼上部構造編 (令和 7 年 10 月) Ver.2.00」	1,150 部
「道路橋示方書・同解説 III コンクリート部材 ・コンクリート上部部構造編 (令和 7 年 10 月) Ver.2.00」	1,120 部
「道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編 (令和 7 年 10 月) Ver.2.00」	1,202 部
「道路橋示方書・同解説 V 上下部接続部編 (令和 7 年 10 月) Ver.2.00」	1,138 部
「道路照明施設設置基準・同解説 (令和 8 年 2 月) Ver.1.00」	188 部

(2) 既 刊 (15 点・1,235 部)

「道路橋点検必携 (令和 6 年版) Ver.1.00」	181 部
「道路橋示方書・同解説 I 共通編 (平成 29 年 11 月) Ver.1.01」	92 部
「道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 (平成 29 年 11 月) Ver.2.01」	97 部
「道路橋示方書・同解説 III コンクリート橋 ・コンクリート部材編 (平成 29 年 11 月) Ver.1.01」	79 部
「道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編 (平成 29 年 11 月) Ver.1.01」	46 部
「道路橋示方書・同解説 V 耐震設計編 (平成 29 年 11 月) Ver.1.01」	78 部
「道路構造令の解説と運用 (令和 3 年 3 月) Ver.4.01」	207 部
「附属物 (標識・照明) 点検必携 (平成 29 年 7 月) Ver.1.01」	28 部
「舗装設計施工指針 (平成 18 年 2 月) Ver.2.00」	53 部

「舗装施工便覧（平成 18 年 2 月）Ver.2.00」	49 部
「舗装設計便覧（平成 18 年 2 月）Ver.2.00」	59 部
「舗装点検必携（平成 29 年 4 月）Ver.1.00」	31 部
「道路土工要綱（平成 21 年 6 月）Ver.2.01」	74 部
「道路橋示方書（平成 24 年 3 月）I～V（合冊版）Ver.1.00」	95 部
「道路橋示方書（平成 29 年 11 月）（I～V）5 冊 + 道路橋示方書講習会資料集のセット」	66 部

3) 機関誌「道路」の発行

機関誌「道路」は、道路に関する幅広い情報の提供を心がけ、会員ならびに読者のニーズに応えるべく道路技術や道路行政の最新動向を特集掲載した。情報誌として内容の充実を図り、令和 7 年 4 月号から令和 8 年 3 月号まで延べ 93,600 部を発行した。

4) 講習会、講演会等の開催

次のとおり出版図書に関する講習会、道路セミナー（政策編・技術編）、道路施策に関する説明会を開催した。開催に当たっては、機関誌「道路」やメールマガジンの配信等により周知を図った。

(1) 出版図書に関する講習会

次のとおり講習会を開催した。

① 道路標識に関する WEB 講習会

『道路標識設置基準・同解説』、『道路標識構造便覧』を用いて、本書籍をより深く理解していただくための講習会を次のとおり開催した。（令和 2 年度実施の再配信）

オンデマンド開催 視聴期間：令和 7 年 4 月 9 日～6 月 30 日（参加者 109 名）

② アスファルト舗装の詳細調査・修繕設計便覧講習会

『アスファルト舗装の詳細調査・修繕設計便覧』を用いて、本書籍をより深く理解していただくための講習会を次のとおり開催した。（令和 5 年度実施の再配信）

オンデマンド開催 視聴期間：令和 7 年 7 月 1 日～9 月 30 日（参加者 83 名）

③ 道路土工の基礎知識と最新技術に関する WEB 講習会

『道路土工の基礎知識と最新技術（令和 5 年度版）』を用いて、本書籍をより深く理解していただくための講習会を次のとおり開催した。（令和 6 年度実施の再配信）

オンデマンド開催 視聴期間：令和 7 年 8 月 1 日～10 月 31 日（参加者 93 名）

④ 舗装再生便覧（令和6年版）講習会

『舗装再生便覧（令和6年版）』を用いて、本書籍をより深く理解していただくための講習会を次のとおり開催した。（令和6年度実施の再配信）

オンデマンド開催 視聴期間：令和7年10月1日～12月26日（参加者19名）

⑤ 道路橋点検必携（令和6年版）に関するWEB講習会

『道路橋点検必携（令和6年版）』を用いて、本書籍をより深く理解していただくための講習会を次の通り開催した。

オンデマンド開催 視聴期間：令和7年3月21日～7月31日（参加者250名 ※令和7年度内の参加者61名）

⑥ 道路の交通容量に関するWEB講習会

『道路の交通容量』（改訂版）を用いて、本書籍をより深く理解していただくための講習会を次のとおり開催した。

ライブ開催：令和7年10月22日（参加者53名）

オンデマンド開催 視聴期間：令和7年11月4日～令和8年1月30日（参加者218名）

⑦ 道路橋示方書・同解説に関する講習会

『道路橋示方書・同解説』の出版に伴い、道路橋示方書の運用の統一を目的として、同書籍の改定内容を含めた改定経緯や技術的背景などを解説する講習会を次のとおり開催した。

東京会場開催：令和7年12月5日（参加者236名）

大阪会場開催：令和7年12月12日（参加者234名）

オンデマンド開催 視聴期間：令和7年12月17日～令和8年3月31日（参加者1,296名）

⑧ 道路土工構造物技術基準・同解説に関するWEB講習会

『道路土工構造物技術基準・同解説』の改訂に伴い、本書籍の主な改訂点を中心に解説する講習会を次のとおり開催した。

オンデマンド開催 視聴期間：令和7年12月10日～令和8年3月31日（参加者307名）

⑨ 道路照明施設設置基準・同解説に関するWEB講習会

『道路照明施設設置基準・同解説』の改訂に伴い、本書籍の主な改訂点を中心に解説する講習会を次のとおり開催した。

オンデマンド開催 視聴期間：令和8年3月2日～令和8年6月30日（参加者60名※3月31日時点）

(2) 道路セミナー（政策編・技術編）

次のとおり道路セミナーをWEB開催した。

① 政策編

会員・非会員を対象に有料にて道路政策の最新の動向や目指すべき方向等を紹介した。

I. 道路のサービスレベル向上に向けて

オンデマンド開催：令和7年4月1日～4月30日（参加者105名）

演題 「道路機能に応じた交通性能の実現に向けて」

講師 名古屋大学大学院環境学研究科 都市環境学専攻 教授 中村 英樹 氏

演題 「道路のサービスレベル向上に向けた現場実装」

講師 国土交通省 道路局 企画課 道路経済調査室 課長補佐 一木 慎太郎 氏

演台 「福井河川国道事務所で実践する道路のサービスレベル向上に向けた取組状況」

講師 国土交通省 近畿地方整備局 福井河川国道事務所長 野村 文彦 氏

II. 「道の駅」の今後の方向性～第3ステージの実現に向けて～

ライブ開催：令和7年9月5日（参加者37名）

オンデマンド開催：令和7年9月11日～10月13日（参加者85名）

演題 「「道の駅」第3ステージの取組等について」

講師 国土交通省 道路局 企画課 評価室 企画専門官 浦岡 優 氏

演題 「道の駅と地域デザイン～第3ステージを迎えて～」

講師 全国「道の駅」女性駅長会 会長 加藤 はと子 氏

演題 「メディアが注目する道の駅とは？～NEW OPEN & リニューアル成功事例に学ぶ「選ばれる道の駅」の条件～」

講師 元じゃらん編集長 芝谷 千恵子 氏

III. 安全で快適な自転車利用環境の向上に向けて

ライブ開催：令和7年11月17日（参加者26名）

オンデマンド開催：令和7年11月25日～12月25日（参加者52名）

演題 「自転車通行空間整備と交通事故への影響」

講師 埼玉大学大学院 理工学研究科 准教授 小嶋 文 氏

演題 「自転車の安全利用に向けた取組について」

講師 警察庁 交通局 交通企画課課付 島根 雄高 氏

演題 「自転車ネットワークの現状と今後の取組について」

講師 国土交通省 道路局 参事官（自転車活用推進）付 自転車活用推進本部事務局 課長補佐 太田 峰誉 氏

IV. 自動運転の実現に向けて

ライブ開催：令和7年11月28日（参加者6名）

オンデマンド開催：令和7年12月5日～令和8年1月5日（参加者34名）

演題 「自動運転の実現に向けた道路局の取り組み」

講師 国土交通省 道路局 道路交通管理課 ITS 推進室 課長補佐 北城 崇史 氏

演題 「自動運転トラックの社会実装に向けて」

講師 株式会社 T2 事業開発本部 渉外部 プロジェクトマネージャー 三浦 太樹 氏

演題 「自動運転 AI の現状とこれから」

講師 Turing 株式会社 事業開発チーム マネージャー 亀川 翔 氏

② 技術編

会員・非会員を対象に有料にて道路の技術基準を解説した。

I. 道路技術基準の基礎～温故知新／技術基準の起源や変遷を知ろう～

ライブ開催：令和7年6月26日（参加者26名）

オンデマンド開催：令和7年7月4日～8月4日（参加者76名）

演題 「道路技術基準の基礎（総論）」

講師 国土交通省 道路局 企画課 課長補佐 立田 安礼 氏

演題 「道路幾何構造技術基準の変遷」

講師 国土技術政策総合研究所 主任研究官 田中 良寛 氏

演題 「道路橋技術基準の変遷」

講師 国土技術政策総合研究所 主任研究官 瀧本 耕大 氏

演題 「道路トンネル技術基準の変遷」

講師 国立研究開発法人 土木研究所 トンネルチーム 主任研究員 小泉 悠 氏

演題 「舗装技術基準の変遷」

講師 国立研究開発法人 土木研究所 舗装チーム 上席研究員 渡邊 一弘 氏

II. 橋梁計画基礎講座

ライブ開催：令和8年3月5日（参加者35名）

オンデマンド開催：令和8年3月11日～4月30日（参加者81名※3月31日時点）

演題 「橋梁計画における「基本事項、上部構造形式、付属物形式」

講師 株式会社ニュージェック 道路グループ グループマネージャー 中谷 洋 氏

演題 「橋梁計画における「基本計画、下部構造形式、基礎構造形式」

講師 株式会社オオバ 名古屋支店 設計部 部長 柘植 康範 氏

III. 交通状況の評価

ライブ開催：令和8年3月30日（参加者15名）

演題 「交通状況の評価」

講師 株式会社道路計画（芝浦工業大学 客員教授） 野中 康弘 氏

演題 「道路交通サービスの質の向上に向けて」

講師 株式会社長大 社会基盤事業本部 計画事業部 計画4部 部長 内海 泰輔 氏

(3) 道路施策に関する説明会

次のとおり説明会をWEB開催した。

① 道路防災対策に関する説明会

ライブ開催：令和7年6月25日（参加者416名）

オンデマンド開催：令和7年7月1日～7月31日（参加者614名）

演題 「道路防災対策に関する説明会」

講師 国土交通省 道路局 環境安全・防災課 道路防災対策室 鳥澤道路防災調整官

② 令和8年度道路関係予算概算要求説明会

ライブ開催：令和7年9月19日（参加者323名）

オンデマンド開催：令和7年9月26日～10月26日（参加者525名）

演題 「令和8年度道路関係予算概算要求説明会」

講師 国土交通省 道路局 企画課 松本課長

③ 道路メンテナンスに関する説明会

ライブ開催：令和7年10月30日（参加者396名）

オンデマンド開催：令和7年11月10日～12月10日（参加者619名）

演題 「道路メンテナンスの現状（3巡目1年目点検結果）の公表」

講師 国土交通省 道路局 国道・技術課 道路メンテナンス企画室 三好課長補佐

演題 「新技術の活用とデジタル化・DXに向けた取組」

講師 国土交通省 道路局 国道・技術課 本村企画専門官

④ 令和8年度道路関係予算説明会

ライブ開催：令和8年3月9日（参加者311名）

オンデマンド開催：令和8年3月13日～4月13日（参加者465名※3月31日時点）

講師 国土交通省 道路局 企画課 松本課長

5) 第36回日本道路会議の開催

令和7年11月6日（木）、11月7日（金）の2日間、東京都千代田区都市センターホテルとオンラインで開催され、発表者・聴講者あわせて前回は上回る2,200名以上の参加となった。

今回の道路会議は、「豊かで安全な日本の未来を支える賢く持続可能な道路とは～新技術、DX等を活用した、道路のサービス向上による社会課題の解決と新たな価値の創出～」をテーマに、

最新事例や研究成果の共有、道路の将来展望への基調講演及びパネルディスカッション、一部の論文発表について集中討議セッションを行った。

6日午前には日本道路協会会長による開会挨拶、実行委員長国土交通省道路局長の総括基調講演が行われ、道路行政全体の現状及び将来像が紹介された。

同日午後から7日にかけて、「2050年カーボンニュートラルに向けた道路の脱炭素化の推進」、「持続可能なインフラマネジメントの実現」、「旅行速度に着目した道路のサービスレベル向上の実装に向けて」、「自動物流・自動運転社会の実現」、「防災・減災、国土強靱化の在り方」、一般財団法人ITSサービス高度化機構共催の「つながるクルマと道路～世界の潮流から探る協調ITSの現在と将来～」の6つのテーマについて、基調講演・パネルディスカッションが行われ、有識者や行政、関連企業等を交えて幅広い議論が行われた。

また、2日間で口頭発表559編、ポスターセッション発表48編の一般論文・事例報告発表が行われた。

このうち、今回新たに募集した「提案型の論文」は13編の発表となった。技術的課題の多様化を反映し、産・学・官それぞれの立場から、広範な内容の発表、活発な質疑応答や意見交換が実施された。

毎回好評である集中討議セッションはすべての部門で行われ、先進的な事例や現場の取り組みが共有され、参加者を交えた議論や意見交換が行われた。

さらに、企業ブースでは、全14社による出展があり、民間企業の技術展示や、参加者と企業担当者による情報交換等活発な交流が繰り広げられた。

6) 道路広報

- (1) 道路への理解と普及のため、国民参加型広報への協力として「道路ふれあい月間」等への協賛を行うなど、道路整備に対するニーズの把握と理解の普及に向けた広報啓発活動を実施した。
- (2) 道路関係資料等の保存・活用システムの構築に向け、今後必要なデータを適宜利用できる環境整備を実施した。
- (3) 会員、道路関係者に対する最新の技術・情報提供を行うため、ホームページの改善を適宜に行った。

6. 国際協力事業

道路関連産業や道路技術の海外展開を支援する道路協会の機能強化および、協会会員への国際活動成果の還元を運営方針として、以下の事業を実施した。

1) PIARC (World Road Association : 世界道路協会) 関連事業

(1) 実行委員会・総会

令和7年4月7日から9日にかけてカザフスタン、アスタナ市で開催された実行委員会に、PIARC分科会長の平井節生氏ほか関係者が出席し、各国参加者と情報交換、意見交換を行った。

同年10月27日から28日にかけて韓国、コヤン市で開催された総会に、平井氏ほか関係者が出席し、各国参加者と情報交換、意見交換を行った。本総会において日本からの実行委員に吉岡幹夫氏が就任した。

令和8年3月7日から8日にかけてフランス、シャンベリー市で開催された実行委員会に、PIARC分科会長の代理として平井氏ほか関係者が出席し、各国参加者と情報交換、意見交換を行った。

(2) 道路災害マネジメントに関する国際ワークショップの開催

令和7年5月26日から30日にかけて大阪市中之島会館において、TC1.5（災害マネジメントに関する技術委員会）を開催し、各国参加者と情報交換、意見交換を行ったほか、27日には「道路災害マネジメントに関する国際ワークショップ」を開催し、500名を超える道路関係者が参加した（会場及びウェブ）。

(3) 道路統計委員会の開催

令和7年10月6日から8日にかけて道路統計委員会を実施し、各国参加者と情報交換、意見交換を行った。

(4) 第17回冬期サービスと道路のレジリエンスに関する道路会議（シャンベリー冬期大会）への参加

令和8年3月10日から13日にかけてフランス、シャンベリー市で開催されたシャンベリー冬期大会への日本の参加を促すべく大会準備委員会を設置し、準備とりまとめを実施した。大会には国土交通省をはじめとし団体、民間等から200名余りが参加した。技術展示会においては、当協会がとりまとめ役となって官民26の企業・団体が共同でパビリオンを出展し、我が国の道路施策、道路技術を紹介した。

(5) PIARC 活動報告会の実施

令和7年12月15日にPIARC活動報告会を実施した。17の技術委員会に参加している日本委員から2025年の活動報告があり、180名を超える道路関係者が参加した（会場及びウェブ）。

(6) 技術委員会活動の機関誌「道路」掲載

国内におけるPIARC活動成果の共有および委員会活動の活性化を図るため、技術委員会活動報告を機関誌「道路」へ継続的に掲載した。

(7) テクニカルレポートの国内案内

技術委員会の成果物であるテクニカルレポートを道路協会会員ほか、国内関係者へ積極的に紹介した。

(8) PIARC 本部事務局への技術者派遣

PIARC 本部事務局の要請に基づき、テクニカルアドバイザー（東日本高速道路株式会社所属）1名を引き続き派遣した。

2) IRF (International Road Federation : 国際道路連盟) 関連事業

(1) IRF 総会・理事会

令和7年12月9日から10日にかけて米国、ロングビーチ市にて開催されたIRF総会・理事会に当協会を代表してIRF分科会長の山中義之氏が出席し、各国参加者と情報交換、意見交換を行った。

(2) IRF グローバル会議

令和7年12月9日から12日にかけて米国、ロングビーチ市にて開催されたIRFグローバル会議に山中氏ほか関係者が出席し、各国参加者と情報交換、意見交換を行った。

(3) 令和7年度 IRF 奨学生の推薦

関係機関からの賛助を得て、令和7年度IRF奨学生1名の推薦を行った。

(4) IRF 奨学生報告会の開催

令和5年度－6年度のIRF奨学生を対象とした帰国報告会を開催し、IRF奨学生制度の意義やIRF活動について情報交換、意志交換を行った。

(5) 令和8年度 IRF 奨学生の決定

令和8年度IRF奨学生の募集および選考を行った結果、推薦を見送った。

3) REAAA (Road Engineering Association of Asia and Australasia :

アジア・オーストラレイシア道路技術協会) 関連事業

(1) 評議員会等

令和7年5月5日から6日にかけてオーストラリア、メルボルン市にて開催された評議員会および10月28日から31日にかけて韓国、コヤン市にて開催された総会、評議員会等に当協会を代表してREAAA分科会長の橋場克司氏ほか関係者が出席し、各国関係者と情報交換および意見交換を行った。本総会において、土井弘次氏が第18期評議員の日本道路協会代表および副会長に就任した。

(2) 第17回 REAAA 道路会議 (REAAA コヤン大会) への参加

令和7年10月28日から31日にかけて韓国、コヤン市で開催されたREAAAコヤン大会への日本参加の準備とりまとめを実施した。大会には国土交通省を団体、民間等から200名余りが参加した。

(3) 技術委員会

技術委員会舗装小委員会の活動に国内関係者が参加し、調査、分析等を実施した。

(4) 若手技術者会議

若手技術者会議に国内関係者が参加し、情報交換、意見交換をおこなった。

4) 海外留学生研究援助

令和7年度海外留学生援助金の給付

「海外道路研究基金」による令和7年度援助金支給者を募集し、選考の結果、1名に給付した。

5) 国際アスファルト舗装学会活動等

(1) WEB会議による意見交換、SURF2026の開催案内等を行った。

6) SURF2026の日本開催準備

(1) 令和8年度に開催するSURF2026の諸準備を、実行委員会を設置して行った。

7. 表彰その他事業

1) 道路功労者の表彰

道路整備事業の推進ならびに道路愛護・美化保全等に尽力された団体および個人に対して、各都道府県・政令指定市、国土交通省各地方整備局、北海道開発局、各高速道路会社、一般社団法人日本道路建設業協会、一般社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会および一般社団法人日本橋梁建設協会の推薦を得て、80団体ならびに個人50名の方々に対し、各推薦団体を通じ表彰した。

2) 会長奨励賞の表彰

自らの創意工夫を加え、その後の業務遂行に多大な成果をあげた者を表彰し、道路技術の進展に寄与することを目的とし、3件を決定し、表彰することとした。

3) 公益事業協力

(1) 「道路技術勉強会」の開催

一般社団法人建設コンサルタント協会近畿支部との共催により「道路技術勉強会」を開催した。

① 自動物流道路の構築にむけた検討状況 他

開催日時：令和7年6月19日（参加者 82名）

開催場所：大阪市

② 道路ネットワークのあり方 他

開催日時：令和7年10月8日（参加者 78名）

開催場所：大阪市

- ③ 防災・減災、国土強靱化、災害対応の深化 他
開催日時：令和7年12月2日（参加者 84名）
開催場所：大阪市
- ④ 道路の脱炭素化の推進 他
開催日時：令和8年3月4日（参加者 83名）
開催場所：大阪市

8. 組織の強化

地方ブロック担当参与の協力を得て、地方自治体幹部との意見交換を北海道ブロック、東北ブロック（宮城県）、関東ブロック（群馬県、千葉県）、北陸ブロック（新潟県、富山県、石川県）、中部ブロック（愛知県、岐阜県、静岡県、三重県）、近畿ブロック（滋賀県、京都府、和歌山県）、中国ブロック（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県）、四国ブロック（徳島県）、九州ブロック（福岡県、宮崎県、熊本県）で実施し、協会業務の最新情報を提供するとともに新規加入への働きかけを実施した。

事業報告の附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項」に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。